



JCS NEWS

日本チェロ協会会報 第30号 (2009年1月31日)

2008.12.13

ルイス・クラレット先生による マスタークラス開催

～サントリーホール・ブルーローズにて～



左から、堤会長、倉田先生、荻田先生、恵村さん、佐藤さん、鎌田さん、水野さん、クラレット先生、和田さん、鳥羽さん

2008年12月13日、昨年に引き続きルイス・クラレット先生をお招きして、日本チェロ協会主催公開マスタークラスを開催いたしました。2007年夏にリニューアルされたサントリーホール・ブルーローズ（小ホール）での久々のマスタークラス開催となりました。

クラレット先生は、受講生それぞれの曲の内容やテクニック、アーティキュレーションやダイナミクスなど細かくお話され、また、全体を通して、楽譜にある音をどんな音にしたいか、というのは「自分の選択である」という言葉が大変印象的でした。自分で全てを考え、どんな音にしたいか、ピブラートの量も、音量も、グリッサンドもすべて自分で意思を持って選択するように、というアドバイスが3人の方皆様にありました。

今回は、堤会長、評議委員の倉田先生、荻田先生がご出席、一般の方も幼稚園のお子様をはじめ、沢山のお客様において頂きました。おかげさまでとても盛り上がったマスタークラスとなりました。クラレット先生をはじめ、コーディネートして下さったスピカ・深澤様、通訳の鳥羽様、ご参加下さった受講者の皆様、聴講の皆様、ボランティア・スタッフとしてお手伝い頂きました会員

の渡辺様、溝口様、撮影をお手伝い下さった住野様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

以下、受講者のレポート、及び当日のスケジュールをご紹介します。

水野 由紀さん

(S-066 桐朋女子高等学校音楽科 3年生)

この度、ルイス・クラレット先生の公開レッスンを受講させて頂き、貴重な機会を与えて下さった事に感謝致します。

私は、ハチャトゥリアンのチェロ協奏曲をレッスンして頂きました。

技術的には主に右手（弓）について教えて下さり、ひじと手首の関係については、私の場合ひじが高く力が入っているため脱力する事、また右手の指は力を入れる



という訳ではないのですがしっかりするという事など学びました。

またアップボウの時に音をふくらませないように、クロマテックの時に弓のスピードに注意、弓は音色・使う量・場所など考えるよう学ばせていただきました。体の重心については、下に重みをのせて自分にとって心地の良い体の使い方を工夫することが大事だと知りました。

音楽的にフォルテとピアノのコントラストをもっとつけること、クレッシェンドなど譜面に書かれている事をよく読むようにしようと思いました。

短い時間のレッスンでしたが、ルイス・クラレット先生の音楽に触れさせて頂いたことはこれからの私自身の課題が的確に分かり、非常に充実した時間でした。

最後になりましたが、チェロ協会の関係者の方々に大変お世話になりました、この場をお借りして御礼申し上げます。有難うございました。

鎌田 茉莉子さん

(S-059 桐朋女子高等学校音楽科 3年生)

私が今回のクラレット先生のレッスンを受講したいと思ったのは、前回の先生のマスタークラスを聴講したからです。先生が1人1人に合ったアドバイスを下さっている様子を見て、ぜひ私も本場スペインの先生にラルの第3楽章を教えて頂きたいと思いました。

まずはテクニックのことから。左手で弦を押さえる時は上から弦を押すのではなく、親指の方向に引っ張る様にと。3指4指でビブラートをかける時は、親指とその指だけで押さえる方が動きやすいということ。C線を弾く時は、身体を右にひねって身体全体で弾くこと。弓を持つ右手は、1本1本がバラバラの指ではなく、



ひとかたまりのアーチの形にすること。

次に表現方法。アクセントを多用しないこと(どの音もアクセント!アクセント!と続けないこと)。それはテヌートも同じです。緊張したフレーズの後にはそれを緩める。なぜならば、スペイン音楽なのだから。ガラリと気分を変えるように。

今回、私が驚いたことは先生が自分の弾きたいイメージを最初に持って、それに近づく表現を目指すようにとおっしゃったことです。今まで私はただ単になんとか弾いていて、難しいところも少し重点的にさらっていただけでしたので、これからは自分の表現したい音楽をちゃんと考えていきたいと思います。

素晴らしい体験をさせて頂いてありがとうございます!クラレット先生の大きな手と優しい笑顔が私の一生の宝です。

佐藤 有沙さん

(S-091 東京藝術大学音楽学部 3年生)

今回のマスタークラスで一番印象的だったのは、左手の抑え方についてです。今までは良い音のためになるべく強く抑えるという方法をとっていたのですが、特に高音域などはビブラートがかけにくくなっていました。そ



ルイス・クラレット チェロ公開マスタークラス

2008年12月13(土) 19:00
サントリーホール ブルーローズ

講師: **ルイス・クラレット**
Prof. Lluís Claret

通訳: 鳥羽 亜矢子
Ayako Toba, interpreter

- ① 19:05~ **水野 由紀**(桐朋女子高等学校音楽科 在学)
Yuki Mizuno
ハチヤトウリアン: チェロ協奏曲イ短調 第1楽章
Aram Il'ich Khachaturian: Cello Concerto in E minor
ピアノ伴奏: 丹 千尋
- ② 19:40~ **鎌田 茉莉子**(桐朋女子高等学校音楽科 在学)
Mariko Kamata
ラロ: チェロ協奏曲ニ短調 第3楽章
Victor Antoine Édouard Lalo: Cello Concerto in D minor
ピアノ伴奏: 和田 晶子
- ③ 20:15~ **佐藤 有沙**(東京藝術大学音楽学部 在学)
Arisa Sato
シューマン: チェロ協奏曲イ短調作品129 第1楽章
Robert Alexander Schumann: Cello Concerto in A minor Op.129
ピアノ伴奏: 恵村 友美子

◆ ルイス・クラレット氏プロフィール ◆

9歳で音楽教育を受け始め、リセウの音楽院を優等で卒業し、ついで、エンリク・カザルス(マブロカザルスの弟、チェリストではない)から音楽教育を受ける。また、フランス、イタリア、アメリカで、モリス・ジャンロン等から教えを受けた。
ボローニャ(1975年)、カザルス(1976年)、ロストロポーヴィチ(1977年)の各国国際コンクールに優勝した後、ワシントン・ナショナル管、モスクワ・フィル、フランス国立管、イギリス室内管、フィルハーモニーアンガリカ、チェコフィルなど世界各国のメジャー・オーケストラに招聘され、ピエール・ブレーズ、カール・ミューゼガー、ドミトリ・キリエンコ、ヴィルト・トマスワフスキ、ジョージ・マルコム、ヴァツラフ・ノイマン、ムスタファ・ロストロポーヴィチらの巨匠の指揮で演奏を重ねる。
こうした演奏に加え、クラレットは室内楽にも力を注いでいる。バルセロナ・トリオ(1981~1993)の創立メンバーであり、著名な音楽家と度々共演している。
また、国際コンクール(ロストロポーヴィチ・パシ、レナート・ローズ、ワシントン、パウロ・ヘルシグ、トラバーニ/シチリア)の審査員として定期的に参加するほか、音楽学校や音楽院など(アンゴラ、バルセロナ、トゥールーズ、ボローニャ、ウィック、バンフ、アカデミー・ラヴェル、サン・ミゲル・ド・キエウ)で指揮にあたる。
レパートリーはバロックから現代音楽まで多岐にわたり、特に現代作曲家(デビティエー、ルトスワフスキ、ブレーズ、クセナキス等)から多くの作品を献呈され、初演を行っている。
また、クラレットはバルモニア・ムンディとオーヴィディウス両レーベルに多くのレコーディングを残している。

主催: 日本チェロ協会 / 協力: サントリーホール





れを、pressでなくpullという反対の方法でアプローチすることを教えていただきました。喉が開いた感じの音になり、ビブラートもかけやすくなりました。体にも負担が少ないので、これから積極的に利用して自分のものにし

ていきたいと思います。

それから、1音につき1本の指だけしか抑えないという発想も私にとっては新鮮でした。主に音程のために、なるべくステイさせていたからです。しかしこれも試してみると手がリラックスして、音質ものびやかな方向に変わりました。

クラレット先生は他の受講生にも、このように無駄のない様々なテクニックを伝えていらっしゃいました。そして何より、音楽的な表現のために、まずどのテクニックを使うか冷静に選ぶという姿勢を強く感じました。私たちとは体型も体力も全く異なるはずの先生ですが、とても有用で、今回受講させていただいて本当にラッキーだったと思います。とても勉強になりました。

先生、チェロ協会の皆様、聴講された方々、どうもありがとうございました。



9月21日(日) 秋津 智承 先生

2008年9月21日(日)に、秋津智承先生主宰により初めて広島にてチェロサロンを開催いたしました。

今回は「大きな音を出すコツ」というテーマのもとレッスンして下さいました。クリニックでは2名の方が受講され、それぞれの方の各々の曲にあった弾き方などの細かい説明を交えた、楽しいお話が盛り沢山のクリニックとなりました。

その後アンサンブルでは、ゴルダーマンの「セレナーデ」の演奏となりました。まず一回全体を通した後、お互いの音をいかに合わせるか、という点を徹底的にお話くださるために先生のお手製の和声の楽譜を皆様にお配り頂き、レッスンが始まりました。

そして、その最初のC-DurのIの和音をいかにパートごとで音を合わせ、そこからいかに4パートでのハーモニーを作るか、時間をかけて丁寧にご指導下さいました。

途中お一人お一人の音をお聞きになって、皆様「松ヤニ」をつけすぎなのは、ということでした。そこで参

加者の皆様が弓と弦を布で拭かれるという時間が設けられ、何名かの方は松ヤニを拭き取る前と後で驚くほど音が変わられていました。Iの和音のあと、V₇の和音を参加者全員で揃えられるように練習したところで時間が来てしまいました。

短い時間の中でしたが、ご参加の皆様には「音」や「ハーモニー」に大変集中していただけたのではないのでしょうか。今後も東京以外の都市でもチェロサロン開催できたら、と思っております。

ご参加下さった皆様、ご協力下さった皆様に心より御礼申し上げます。

◇日 時 9月21日(日) 14:00~16:00
(16:30位まで延長)

◇会 場 広島アステールプラザ・リハーサル室

◇主 宰 秋津 智承 先生

◇参加人数 14名：講師1名、会員1名、一般12名
(クリニック参加者2名、アンサンブル参加者9名、聴講のみ4名)



☆参加者の声☆

清水俊明さん (R-249)

この度は、秋津智承先生のクリニックを受けさせていただき、誠にありがとうございました。

私が今回、秋津先生にクリニックいただいた曲は、バッハチェロソナタNo.1プレリュードだったのですが、私の疑問点、「D線が鳴らない」「曲調の表現に悩む」の2点に、明確かつ、アーティスティックにご指導いただきました。私の演奏を聞き終わられ、まず仰られたのが、「清水さんは、目標にしている方がいますか?」というご質問でした。私はカザルスが大好きで、常にカザルスならどう弾くだろう?と思いながら練習していましたので、「カザルス先生です。」とお答えしたところ、「やっぱりそうでしたか。カザルスだと思いました。」このお言葉には大変びっくりしました。私の表現の根源まで見抜いていらっしゃいました。そして、疑問点であった、D線の鳴りの悪さについては、私の楽器を試奏され、すぐに「駒の傾斜がないようですね。」とのアドバイス。秋津先生の楽器を見せていただいたところ、D線、A線には傾斜がついていました。駒の調整が必要だったのです。2番目の本題、プレリュードの繰り返す波のようなアルペジオの表現方法については、絵画を例に上げられ、遠近観の表現、エジプト古代壁画のような特異性、単にアクセントの強弱だけでない、楽譜の奥に無限の表現があることを教えていただきました。また、基礎的な奏法については、弓の位置(指板より駒より)によって各弦の鳴るポイントを掴むようご指導いただいたのと、松脂だらけだった弓と弦をきれいにふき取っていただき、「松脂の付け過ぎは禁物ですよ。」とのアドバイス。実際、松脂を拭い去ったあと、なんとも柔らかい美しい響きになりました。このサロンに参加されていた皆さんが、一斉に松脂を拭い始めた場面です。「楽器の鳴らし方にコツあり」という秋津先生の今回のポイントの一番目でした。

私の次にクリニックを受けられた西田さん(岡山交響楽団所属)の演奏については、バッハチェロソナタNo.3プレリュードだったのですが、バロック奏法と現代奏法の違いなど、時代による奏法の移り変わりをわかり易くご説明されておられ、とても参考になりました。こうして2名のクリニックが終わり、小休憩をはさみ、今回の参加者全員によるアンサンブルのご指導でした。

ここでも「楽器の鳴らせ方」について各パート毎に、丁寧にご指導いただき、一度、3度、5度、7度の各パートのそれぞれの奏者一人一人に、鳴らし方、パートナーとの合わせ方、他パートとのバランス等、本当に精密に深く、愛情を持ってご指導いただきました。実際に二つの和音だけでアンサンブルクリニックの時間が終わってしまうほどの充実した時間でした。

こうして各パートが一斉に二つの和音を演奏したとき、なんとも言葉で表せないほどの至福感が得られたのです。後日、私はインターネットで駒の調整方法を調べ、自分の楽器の駒の高さが適正ではなかったことが判明、駒の

立ち位置も、指板側に2~3ミリずれていました。駒は自分で削り傾斜をつけ、位置も正しい位置に立てたところ、ビックリするほどバランスよく鳴るようになりました。

最後になりますが、広島に於いてチェロサロンの開催にご尽力いただきました、チェロ協会の皆様、秋津先生、参加者皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

次回“チェロサロン”開催のお知らせ

2009年3月15日、河野文昭先生を講師にお迎えし開催を予定しております。これまでのチェロサロンに参加されている方も初めての方も、奮ってご参加ください。詳細・申込み方法については、ホームページおよび同封のチラシをご覧ください。皆様のお申し込みを心よりお待ちしております。

- ◇日時： 2008年3月15日(日) 14:00~16:00予定
- ◇場所： サントリーホール・リハーサル室
- ◇主宰： 河野 文昭先生(日本チェロ協会評議委員)

事務局より

●事務局連絡先の変更

11月より下記の通り事務局の電話番号及びFAX番号が変更となりました。会員の皆様にはご不便をおかけ致しますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

電話：03-3505-1001(木曜日10:00~17:30)

FAX：03-3505-1007

●会員更新のお願い

4月、7月に会員の皆様へ更新の手続きをご案内させて頂きました。引き続き、会員更新を受け付けておりますので、是非本年度も会員継続をお願い致します。尚、ご入金にも関わらず会員証が届いていない場合はご一報くださいますようお願い申し上げます。

編集後記

9月のチェロサロン、12月のマスタークラスにご参加いただいた皆様、どうもありがとうございました。昨年に引き続きルイス・クラレット先生のマスタークラスでも多くのお客様においで頂き、おかげさまで無事に終了することができました。今年度は、あと1回のチェロサロンの開催予定がございます。皆様のお申し込みをお待ちしております。

日本チェロ協会会報(JCS NEWS)第30号

2009年1月31日発行

発行：日本チェロ協会

東京都港区赤坂1-13-1 サントリーホール内

電話 03-3505-1001 FAX 03-3505-1007

発行人：堤剛

編集：日本チェロ協会事務局

編集協力：リュウカンパニー